

School Library 10月号

2020. 10. 19発行



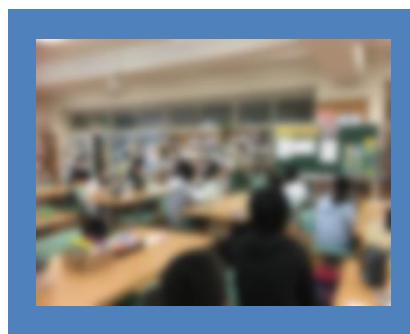
楽しかった運動会も終わり、もう少しで合唱祭ですね。歌には、人を癒す効果があります。人を癒し、心に響く歌を歌いましょう！歌に関するということで、今月のテーマは「音楽」です。ぜひ東原図書館でおすすめ本を借りて、読んでみてください♪

(担当：1-A女子)



図書委員作成おすすめPOP

8月の委員会で阿佐谷図書館の司書の方々をお招きして、POP作成会を行いました。



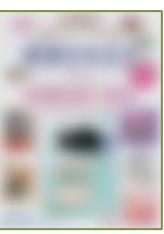
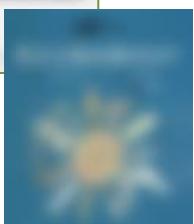
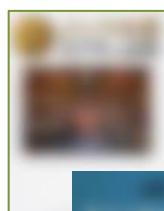
図書館で展示をしています。どんな本があるのか、ぜひ見に来てください!!



新着資料リスト



- 「今がわかる時代がわかる世界地図 2020年版」 成美堂出版編集部／編 290 い 20
- 「今がわかる時代がわかる日本地図 2020年版」 成美堂出版編集部／編 291 い 20
- 「女と男のちがいって？」 プランテルグループ 367 お
- 「国谷裕子とチャレンジ! 未来のためのSDGs 3」 国谷 裕子／監修 333 く 3
- 「ジス・イズ・ホンコン」 ミロスラフ・サセック 292 さ
- 「社会格差はどこから？」 プランテルグループ 361 し
- 「図解でわかる14歳から知る気候変動」 インフォビジュアル研 451 ず
- 「図解でわかる14歳からの水と環境問題」 インフォビジュアル研 519 ず
- 「地球について知っておくべき100のこと」 ジェローム・マーティ 450 ち
- 「地政学でわかるわたしたちの世界」 ティム・マーシャル 312 ま
- 「独裁政治とは？」 プランテルグループ 313 ど
- 「土木のすかん 災害に備えるわざ」 速水 洋志／共著 510 ど
- 「ノーベル賞117年の記録」 ノーベル賞の記録編集 377 の
- 「身のまわりのものでできる手作りマスク」 寺西 恵里子／著 594 て
- 「民主主義は誰のもの？」 プランテルグループ 311 み





テーマ
音楽

『蜜蜂と遠雷』 恩田陸 〇913お1

日本で開催される、芳江国際ピアノコンクール。近年新しい才能が現れるコンクールとして注目を集めている。

ユウジ・ホフマンから「ギフト」と称される少年、風間塵。ステージから消えた天才少女、栄伝亜夜。人を惹きつける演奏をする青年、マサル。トップレベルの技術が集まるこのコンクールの中で天才達の一次予選、二次予選で演奏者達は喜び、悲しみ、怒り、少しづつ変わっていく。

文字化できないピアノの音の描写、表現の美しさにも注目してほしい。ピアノの経験がなくても読める作品。是非読んでほしい。

(担当：1-B女子)



『絵本 千の風になって』

文・新井 満 絵・佐竹 美保 E726さ

この本では、作者不明の詩を作品そのものから推理していきます。作者の新井満さんは、「千の風になって」という詩を誰が作ったかを考えているうちに、この物語を思いつきました。この本の、面白いところは、最後に歌がのっているところです。是非歌ってください。

(担当：1-A男子)



『よろこびの歌』 宮下奈都 〇913み1

音大付属高校の受験に失敗し主人公御木元玲は、同級生とのかかわりを拒んでいた。しかし、校内合唱コンクールをきっかけに成長していく。

この本がおすすめの理由は、もう少しで合唱祭ということと、仲間との絆の物語だからです。これを読んでみんなとの絆を深めてください。

(担当：1-C男子)

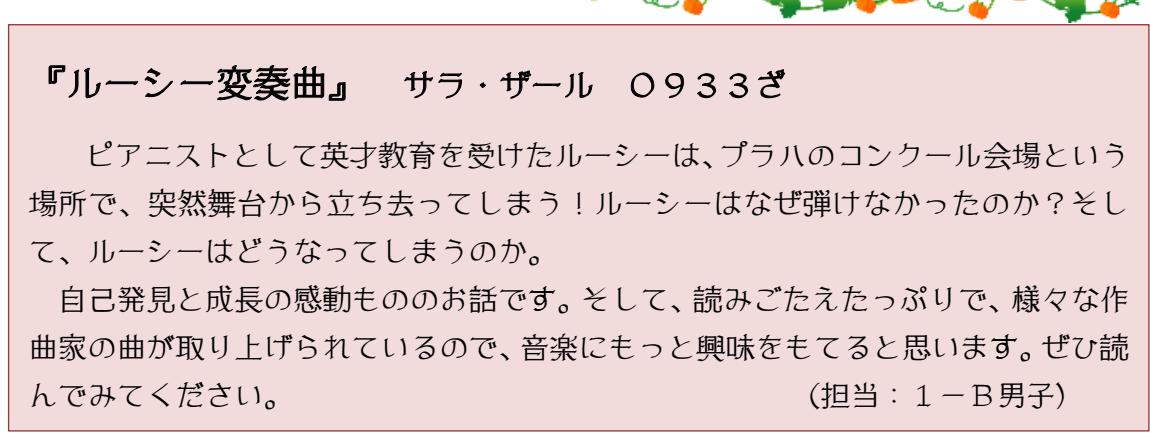


『ルーシー変奏曲』 サラ・ザール 〇933ざ

ピアニストとして英才教育を受けたルーシーは、プラハのコンクール会場という場所で、突然舞台から立ち去ってしまう！ルーシーはなぜ弾けなかったのか？そして、ルーシーはどうなってしまうのか。

自己発見と成長の感動もののお話です。そして、読みごたえたっぷりで、様々な作曲家の曲が取り上げられているので、音楽にもっと興味をもてると思います。ぜひ読んでみてください。

(担当：1-B男子)





私と読書 英語科の先生



Happy
Halloween

今思うと、中学生のころからもっと本に触れておけばよかったなと思う人生でした。その反動か、大人になってからの今の方が読書に対する熱量はあるような気がします。

読書をするようになったのは大学1年生の時からです。大学2年時に学部生全員が1年間留学に行く大学だったので、日本にいるうちに本を読んでおきたいと思い、読書をするようになりました。昔から実施できるかはさておき、“計画を立てる”という行為が好きだったので、「1年間で50冊読もう」なんていう読書初心者が陥るドツボにしっかりハマりながらも読み始めたことが印象的です。もちろん達成はできなかったですが…。

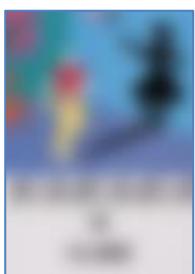
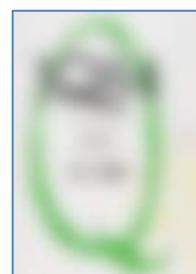
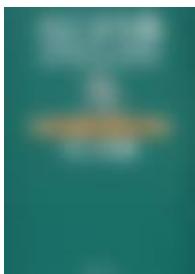
何をするにも三日坊主が恒例になっていた自分にとって、今でもここまで読書が続いているのは、最初に読んだ一冊のおかげだと思います。

ミーハーな性格が功を奏したのかどうかはわからないのですが、自分の場合、本屋さんで真っ赤、真縁の上下巻ブックカバーに目を惹かれ、村上春樹の『ノルウェイの森』をあらすじも見ないまま最初に買いました。いわゆる“ジャケ買い”というやつです…。そんな安易な理由で購入したものの、大学生から一人暮らしをするようになり、自分自身と向き合う時間が多くなっていた環境で読み始めたので、向き不向きがあるといわれている村上作品でも、苦労なく読み続けられました。

「少し周りよりも大人っぽく見られたい」なんていう、読み始めた頃の浅はかな考えとは裏腹に、しっかりと物語の内容・世界観に魅了されている自分に驚きました。夜バイトから帰宅して、夜中に読み始め、気づいたら朝日が出てきている、なんてこともしばしば…。

留学に行ってからも、海外の大学の図書館には沢山の日本の小説があるので、そこに籠っては村上春樹シリーズを漁っていました。『ねじまき鳥クロニクル』、『羊をめぐる冒険』、『1Q84』、『ダンス・ダンス・ダンス』、有名な作品は基本読んだつもりです。最新作の『1人称単数』はまだ、読めてないのですが…。

そんなこんなで自分は、最初に読んだ1冊が見事にハマったおかげで読書が好きになりました。あくまで個人の考えですが、自分の好きな1冊を見つけるかどうかが、読書好きになれるかどうかの境目な気がします。今では啓発書をはじめ、ほかの作家さんの作品も、食わず嫌いせずに朝の通勤時間に読んでいます。みなさんもきっかけは何でもいいと思います。ぜひ好きになれる1冊との出会いを探してみてください。



(担当：1-C女子)



音楽科の先生

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』

ブレイディみかこ 376ぶ

この本は、父がアイルランド人で母が日本人の「息子」が主人公のお話です。学校ランキング1位の公立小学校を卒業したのにも関わらず、元底辺中学校に進学し、様々な問題に出くわす「息子」の日常が書かれています。

例えば、学校には人種差別をむき出しにする同級生や制服が買えないほど貧しい同級生がいます。そんな同級生たちと関係を築きながら自分なりの答えを出そうともがく「息子」の姿に目がはなせません。

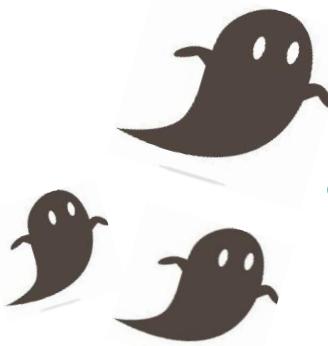
「学校って社会の縮図なのかもしれない…！」「多様性ってなんだろう…？」と思わず考えてしまう一冊です。ぜひ、おもしろいので読んでみてください！



体育科の先生

『ルームシェア』 宇木 聰史 B913う

私は小さい頃から体を動かすことが大好きで、本を読む習慣はありませんでした。しかし学校では朝読書の時間があり、国語の教科書を読んでいた私にサッカーチームの友達が「ルームシェア」という本を薦めてくれました。最初はとりあえず読んでみようくらいに思っていましたが、この本が中学校3年間で唯一読み終えた本になりました。みなさんと同じ年齢の時に読んでいた本で、ラブストーリーなのでとても読みやすいと思います！ぜひ読んでみてください！！



東原中図書館にないものは、阿佐谷図書館や下井草図書館で借りてくださいね。利用カードがあればネットで予約ができます!!
(事前のPW登録が必要です)

